

新年 一層の躍進誓う

県内企業 トップ訓示

県内の多くの企業は4日、新年の仕事始めを迎えた。各トップは年頭訓示で、さらなる成長に向け、一段の飛躍の年にしようという意気込みを述べた。主な経営者の訓示をまとめた。



県内の多くの企業が新年の仕事始め。経営トップが訓示した。岐阜市神田町、十六銀行本店

大改革を成し遂げる



十六銀行

村瀬幸雄頭取

には、お客さまのニーズや社会の変化に合わせた営業変革に努めるとともに、現在取り組んでいる業務改革をスピード感をもって進めていかなければならない。役員が一丸となって大きな改革を成し遂げ、新しいビジネスモデルのもと、未来に向けてお客さまの夢の実現、地域の成長・発展に貢献しよう。

地域金融の原点回帰



岐阜信用金庫

住田裕綱理事長

況を乗り切るため、地域金融機関としての原点に回帰し、営業の質を向上し、特に取引先ごとのニーズや課題に沿ったコンサルティング機能を強化する。地域価値向上のため、地方創生の取り組みも深化させ、今以上に地域活性化と地元企業の稼ぐ力の向上に寄与し、地域で存在感のある金融機関を目指す。

厳しい時こそ変革を



大垣西濃信用金庫

栗田順公理事長

「大垣西濃信用金庫が誕生して間もなく3年。合併時に掲げた「経営の強化」を、地域における存在感を高め、地域社会に貢献する」との目的をいま一度思い起こしてほしい。今年は「真にお客さまのために」をテーマとする営業に注力したい。職員一人一人が自ら考え行動(考動)してほしい。金融機関を取り巻く環境は厳しく、厳しい時こそ変革のチャンスであり成長できるチャンス。全員の英知を集結し、挑戦しよう。

人中心の経営進める



トカイ

小野木孝二社長

「たくましく、そして、やさしく」をキーワードに、人中心の経営を推進する。「たくましく」は、当社の強みや付加価値を高め、稼ぐ力をつける一方、5Sに代表される無駄の排除により、残業時間削減、生産性改善を断行する。たくましさから生まれた収益を活用し、休日の増加、多様な働き方への支援、雇用延長、企業内保育所設置などを検討し、従業員が当社に入社したことを誇りに思つ、人に「やさしい」企業を目指す。

足元固め新しい形を



大垣共立銀行

土屋嶋頭取

ループは、新しいものに挑戦し続けてきた。地域やお客さまからの絶対の信用が大きな財産である。金融庁がさまざまな形で自由化を進めており、OKBにとっても新しいチャンスがやって来た。今年、OKBブランドや新サービスなどにより、OKBの新しい形を構築していく。

付加価値向上させる



東濃信用金庫

市原好二理事長

い。金融商品やサービスの価値を高め、お客さま自身の価値向上を追究し、また、業務の効率化・高度化で仕事の価値(生産性)を高め、筋肉質の経営体質を実現する。役職員の自己研さんによる成長とワークライフバランスも充実させ、ブランド(価値)を向上させ、選ばれる金融機関となる。

大きなビジョン描く



バローホールディングス

田代正美会長兼社長

ど、本質を説いたという。環境が大きく変化する中、バローグループもつくり直す時期を迎えている。どのような企業・店をつくりたいかに自ら解を出し、問い続ける。一方、時代によって変わることにない商売の本質に価値観を持ち続けていく。大きなビジョンを描き、やり遂げることの考えをつくることを期待したい。

現場力をさらに強化



岐阜乗合自動車

岸野吉晃社長

い。現在取り組んでいる「日本一やさしいバス運動」を果のあるものにするには、さらなる現場力の強化が必要だ。各職場で現場力を強くする三つの要素「自主性」「自発性」「自律性」が芽生え、本社と一体となって大きく飛躍できる年になり、今年には地域の皆さまにバスの魅力をより発信していく。